



公立高入試 後期試験がんばれ!

〜後期入試に挑んだ先輩たちからのエール〜

★K・Rさん

(進学先) 県立東葛飾高校

私は数学がとても苦手でした。模試ではまったく点数がとれず、初冬くらいまでは五〇六割しかとれません。これに不安を覚え、一時は小学生の頃から憧れていた志望校を変えるかどうか迷いました。しかし、そこで支えてくれたのが創学舎の先生方でした。「こだわり続けた者が勝つのです。」と。私はそのときから毎日夜まで自習室に通い続けました。先生方の言葉を信じて、日々副教材を進めました。その後、私立入試は上手くいったものの、公立の第一志望校に前期は落ちてしまいました。けれども、私はこだわり続けました。前期が終わったその日からまたがんばりました。そして、後期は高得点で合格することができました。創学舎は、最後まで諦めない心を育んでくれたのです。

★I・Kさん

(進学先) 県立東葛飾高校

私は前期で第一志望校に受かりませんでした。ショックで今までの強気はなくなりかけていました。そんなときに、丁寧先生が面談をしてくれました。しかし、弱気だった私は、志望校を下げて願書を提出しました。モチベーションが上がら

なかった私は、毎日のように先生に面談されました。そして、志願変更をして東葛飾高校を受験することを決めました。それからようやくエンジンがかかりました。直前の補講の一分一秒を大切に、特に理科に力を入れました。創学舎から配布されたプリントは本番形式だったので様々な問題に慣れることができました。また、一番苦手だった数学は、確認テストで、短時間で解く練習をしました。さらに、過去問や他県の入試問題にも触れ、正答率を上げていきました。そうして少しずつ自信をつけて不安を無くしたことにより、本番はベストの状態で臨んで、リラククスすることができました。その結果、最後の最後に合格をつかめました。先生方の厚いサポートにはとても感謝しています。夢を追いかけ続けて必死に努力したら短時間でも充分逆転はできます。私その一人です。だから、自分を信じて頑張ってください。



★S・Nさん

(進学先) 県立小金高校

私は公立前期で落ちてしまい、受験校を変えるか迷いました。けれど、後期までの一週間諦めずに頑張りました。その一週間はすごく辛かったけれど、自分がその高校に行っていることをイメージして合格することができました。三年間ありがとうございました。創学舎に入ってよかったです!

★S・Nさん

(進学先) 県立小金高校

私の私立受験の結果は、行きたい学校・コースの全てが残念な結果でした。その雰囲気は自分の中で引きずっていたのかもしれない。当然、県

立前期のプレテストはぼろぼろでした。しかし、そのおかげで意識が変わり、残りの数日間はとても充実したものになりました。特に英語は、個別に先生にみていただいたことで、直前にも関わらず点数がグングン伸び、本番では満足のいく点数をとることができました。最後の最後にあきらめなくて良かったと思います。

★T・T君

(進学先) 県立柏高校

僕は、国語と社会が苦手でした。直前でもかなり追い込んで頑張り、自分が通いたい高校に合格することができたけれど、苦手な科目は夏休み中には、遅くても十二月までには、克服していると良いと思います。これから受験する皆さんはぜひそうであってほしいと願っています。

伸びた理由は、毎日あきらめずに勉強に取り組んだからだだと思います。僕は前期試験まであまり納得のいくまで勉強をせず、残念ながら不合格でした。けれども、その後の後期試験に向けて、毎日勉強を頑張りました。前期と同じ柏高校。そこに入りたくいと死ぬ気で頑張ったその結果、見事合格しました。

苦痛を乗り越えた先には、必ず希望があるので、それに向けて受験勉強頑張ってください。応援しています。

★S・K君

(進学先) 県立柏南高校

僕は母からの勧めでこの塾に入りましたが、最初はあまり真剣に勉強せず、どんどん成績が落ちていきました。やっと少し勉強するようになったのは三年生になって部活を引退してからでした。それでも本気とはほど遠く、やっと力を入れるようになったのは、公立前期入試の一〜二週間前です。

した。その間は真剣に勉強しましたが(実は本気ではなかった)、前期では受かることはできませんでした。その後に原因を調べ、そして怒られました。まだ、本気になっていない、と。それから毎日八時間は塾に滞在する、勉強漬けの日々を送りました。そして、ついに高得点を出して希望の高校に受かることができました。このことを通して、創学舎の良いところは、最後まで真摯に向き合ってくれるところだと思います。

★M・S君

(進学先) 県立柏南高校

モチベーションを上げてくれた先生方のおかげで、後期にまわった私にも自信ができました。正直、前期で決めるという気持ちでいっぱいだったので、後期にまわったときは本当に焦りました。でも、そんな焦る気持ちの一方で、「現実を変えられない。後期までやるだけやるしか他に道はない」という気持ちもありました。後期選抜までの一週間、創学舎の先生方に励まされながら、必死になって勉強してきました。努力

が報われたのか、後期で第一志望に合格することができました。創学舎で、勉強面だけでなく、精神面でも学ぶことができました。この経験を忘れず、これからの生活に生かしていきたいと思えます。

★M・Mさん

(進学先) 県立松戸国際高校

私が前期入試で落ちてしまっって、落ち込んでいたときに、先生方が気持ちを切り替えて後期入試に向けて頑張ろうと励ましてくださいました。



それからは毎日創学舎に通いました。苦手な理科と社会を重点的にやりました。プリントやワークをやって、だんだん知識が身につきました。そのおかげで、後期入試で合格することができました。

★Y・Sさん

(進学先) 県立鎌ヶ谷高校

私は第一志望の高校に前期で落ち、後期で同じ高校を受けて合格しました。前期の発表から後期まで一週間しかなかったのですが、創学舎の先生が熱心に指導してくださり、苦手な教科も高得点を取ることができました。特に理科と社会が苦手だったのですが、自分が苦手な部分の得点を少しでも上げるためにテキストのページを指定してくださったり、テキストにはない問題を解かせてくださったりしました。また、精神面でも支えてくださいました。前期の発表から一週間は精神的にもきつい日々が続いたのですが、相談に乗ってくださったり、アドバイスをしてくださったりしたので、厳しいと言われていた高校に受かることができました。ありがとうございました。

★I・M君

(進学先) 県立東葛飾高校

私は前期入試に落ちて、後期で受かることができました。この経験を通して分かったことは、合格するには学力だけでなく、精神力もとても大切であるということです。前期で落ちたとき、いつまでも落ち込んでいたのではなく、次に自分が何をすべきなのかを考え、切り換えることが大事だと思いました。そして、もう一つ、体力もとても重要だと思います。やはり、健康が一番です。体の健康を損なってしまつては、楽しいことも楽しくならないですし、できることもできなくなるので、体調管理はしっかりとしましょう。さらにも

う一つ、後輩のみんなに向けて言っておきたいことがあります。努力を続ければ必ず実力がつきます。しかし、だからといって絶対に結果が出るとは限りません。それでも、努力をし続けることに意味があります。本気でやった上での挫折、あるいは成功はこれからの人生でとても役に立つからです。挫折すれば世の中を甘く見なくなりますし、成功はやる気の源になります。逆に本気でやらなければ、成功しても意味がないと思います。何があつても努力はし続けましょう。

(紙面の都合で内容を一部割愛しているものがあります)

創

「笑顔が素敵な人は、見えないところで辛い思いをたくさんしているのよ。」母の口癖がこだまする。

*

子どもはよくケガをする。

私には五歳になる姪がいる。おじいちゃん子の姪は、よく私の手を引っ張つては所かまわず走り回っている。勢い余つて転んでは、よく足を擦りむいている。ケガをして少し涙ぐみながらもパパやママに絆創膏(バンソウコウ)を貼つてもらつては元氣を取り戻し、また走り出す。元氣いっぱい遊んだ勳章(?)とも言える絆創膏たちが小さな姪の足に所狭しと並んでいる。なぜだろう? 姪がたくさんさびしい思いをしてきたことを知っているからだろうか? そんなことをお構いなしに無邪気に走り回る姪を見ていると、いつも心が洗われる。

年に数回しか会えない姪の姿から、ふと「絆創

膏」という言葉に思いを馳せてみる。

「絆創膏」と「創造」。同じ「創」という漢字が使われているが、意味はことなる。「創」といえば「つくる」という意味を最初に思い浮かべるかもしれない。「創造」「創意」「創作」「創立」「独創」……など。それ以外にも「きず」という意味がある。「絆創膏」はこちらの意味で使われる。「きずをつなぎ合わせる薬」で「絆創膏」だ。同じ漢字なのにおもしろい。



「創」の「リ(りつとつ)」は刃物を表し、それで材木を切つて「倉」を建てる様子を表現したことに由来する。「倉を立てる」つくる」とから新たに何かを「始める」という意味が生まれたそうだ。

何かを始めるときには、その営みに先立つて何らかの「きず」を負うことが必要なのだろう。先人たちが「きず」は悲観的な言葉ではなく、物事の新しい始まりに必要不可欠なものなのだ、と捉えたその感性には敬服するばかりだ。

「あの木も同じだ!」さらに思いは巡る。

「神様が作り出したもので、人間にはどうして作り出せない」と称される「伽羅(キヤラ)」という木だ。お香の中でも最上級の香りを持ち、わずか一グラムで、五万円以上の値段がつく(金よりも高価な香木だが、このような香りを生み出せるのはなぜなのか?)

その「香り」の正体は、木にできた「カサブタ」で、木が動物などに引っ搔かれるなどして傷つけられると、傷口が腐らないように樹脂を出して傷を修復しようとする。傷ついては修復し、ということは何度も何度も繰り返す。傷つけられ、痛い思いをして、長い時間をかけて回復してできた「カ

サブタ」が、ものすごい芳香を放つようになる。「カサブタ」もまた、傷ついて再生した「木の勳章」なのだ。

「きず」から生まれる新たな芽は、平坦な何もなるところから生まれた芽よりはるかに力強く成長していく。傷ついた分だけ。乗り越えた分だけ。「創(きず)」が新たな強さを「創(つくる)」のは、呼吸をしている全ての生き物に共通しているのかもしれない。もちろん、人間も同じだ。

次のステージに立つために先立つて、苦しみながら、もがきながら、たくさんの「カサブタ」を心に負つてきた受験生たち。悩みながらも歯を食いしばつて目の前の一間に全身全霊で取り組む姿に私は毎年心を打たれる。「悩みは、過去への後悔と未来への不安からしか生まれない。」という心理学の言葉を思い出す。「今」を置き去りにしていると人は悩み出す。後悔も不安もないわけではない。悩みを抱えながらも懸命に今を生きている受験生たちに、どれだけ勇気づけられてきたことか。

直前に解いた一間が! 単語が! 何気なく読んでいた教科書の内容がそのまま入試問題に出た! そんな先輩たちの声が多数ある。(先輩たちからのエールにあるように) 不安が隣り合わせでも、「今」目の前にある問題をきちんとできるようにした先輩たちは、みな合格を勝ち取つてきた。次はあなたの番だ。「創」に込められた想いを胸に……

Seize the day! 「創」学舎生!

*

兄から送られてきた動画。保育園の運動会で無邪気に走り回る姪。その姿に重ねながら思いを馳せてみる。この冬を乗り越えたあなたが、どんなに素敵な笑顔を浮かべて、今年の桜を眺めているのだろうか。(櫻村)